

ホテルかまぐららの財務的視点による報告

新潟産業大学 経済学部 経済経営学科 3年

榎本 優大・佐藤 佳太

指導教員 岡田 華奈

はじめに

十日町のビジネスコンテストの内容を踏まえ、柏崎で類似したイベント、もしくは事業を行うことが可能かどうかを検証する。このレポートでは同企画を柏崎のどこで、どの程度の期間行い、またその際に導入すべき点として何が挙げられるのか。そしてそれを行うに必要なものとして何が挙げられ、またそれにいかほどの費用が掛かるのかを挙げていくこととする。

記述内容については以下のとおりである。

- ① 使用機材、備品の費用について
- ② イベント、または事業を行う際の人件費について
- ③ 土地使用代金、またその場所について
- ④ 収益予測

1. 使用機材、備品の費用について

機材や道具については十日町ビジネスコンテストで考案したものをそのまま使用することとする。

まずかまぐららを宿泊可能にするためには丈夫な作りをする必要があるため、骨組みを作ることとする。

そして一晩宿泊することを踏まえ、形状や強度的に不安のあるドーム状のかまぐらではなく、北極圏で使用される、圧雪ブロックを使用した『イグルー』と呼ばれる簡易シェルターを宿泊可能サイズまで拡張して使用することとする。

骨組みの概要は以下のとおりである。

- 骨組みは縦 2 メートル、横 60 センチの亚克力板 12 枚を金具で、円柱状につなぎ合わせる。
- 周囲に圧雪ブロックを亚克力板の側面に積んでいき、安全面を考慮して、屋根の上には雪を積まないこととする。
- 屋根部分には透明な亚克力板を使用し、夜に星空を眺めることが可能な作りとする。

ここまでの材料費で一基つくるのに 34 万 1550 円か

ることとすると、その合計金額は約 205 万円となる。

この骨組みの耐用年数を 10 年と考えると 1 年間に 20 万 5000 円を減価償却することとなる。

使用する備品は主に宿泊に必要な防寒用品や、夜に外出するためのライトが主となる。

かまぐら内部にヒーターを設置する場合はジェネレーターやケーブルが必要と考えたが、金額や個数、使用状況での判断が難しかったため、現段階では暖房器具のみの計上となっている。

また上記の理由で調理器具も計上はしていない。

金額については以下の通りである。

- | | |
|-----------|---------------|
| ■ 断熱用のマット | 購入金額 1 万 5 千円 |
| ■ シュラフ | 購入金額 6 万円 |
| ■ ランタン | 購入金額 2 万 4 千円 |
| ■ ヒーター | 購入金額 3 万円 |

2. 人件費について

かまぐら制作費と事務員については、この活動の関係者が行った方が良くと考えられるため、ボランティアという形をとる。また、それ以外には日中の接客と深夜の管理人が必要になる。よって運営体制は以下の通りとなる。

- 日中は 9 人のアルバイトを雇用
- 月 1 人 20 日勤務、1 日 6 人体制
管理人については下記の通りである。
- 日中のアルバイトと交代で勤務
- 1 日 2 人、2 交代制

この場合の人件費は、営業期間 1 ヶ月と考えた場合、アルバイトが 112 万円、管理人が 50 万円かかる。日中アルバイトの費用は労務費に、管理人の費用は人件費に計上する。

その他の費用として、原材料にお米 1 ヶ月分の消費額 16200 円と、宣伝費としてポスター制作費 6 万円を計上する。

原材料費に関してだが、メニュー自体はすでに作られているため、企画実行時にそれを使用するかどうかによって金額の変動が起きると考えられる。コメに関しては最低限必要なものと考えているため、これだけ原材料費に計上した。

3. 土地使用料と料金について

使用する土地については夢の森公園を使うことを想定している。

夢の森公園は敷地面積や施設に関してなかなか良い環境が整備されていると感じるが、冬季に関しては雪のせいで行える屋外イベントがないため、活用があまりできないと思われる。

そこで今回の企画を行うことで地域資源の活用と、冬季の集客につながればと考えた。

ここでいう地域資源には新潟産業大学も含まれている。

新潟産業大学が今企画に参加する場合、以下のようなメリットが挙げられる。

- より安価な人件費の確保
- 若者と地元の方々の交流及び活性化
- 宣伝効果の向上
- 物資の保管や待機場所の確保

三つ目の宣伝効果の向上について。これは学生参加型、もしくは市との共同事業と言う形で企画が行えた場合、その響きは宣伝によく使えるのではないかと考えられるためである。

また夢の森公園で企画を実施した場合、新潟産業大学とは距離的な面でも利便性が高いため、上記したものも含め複合的な利益が見込めると考えられる。

4. 収益予測と問題点に関して

これまで算出した数値は最低限のものが多く、実際にかかる費用は多くなると考えられる。

だが現時点では定まっていない点が多々存在するため、現状わかる点のみを使用し、予測を行うこととする。

現時点での売上、粗利益、営業利益は以下の通りである。

- 売上 288万円

■ 粗利益 150万円

■ 営業利益 94万円

粗利益は、

売上(サービス利用単価×営業期間×一日動員数) - 原価で求める。

営業利益は、

粗利益 - 販売管理費で求める。

柏崎で今企画を行う場合、損益分岐点(赤字を出さない最低ライン)の金額は約5400円となり、現時点では利用料を8000円と定めている。

今企画は継続して行う物と仮定しているため、3枚目の表には継続して行った場合の数値が入力されている。

次からは日中行うイベントについて、短いが記述を行う。まず、ホテルの営業は夕方からとし、日中は雪を利用したアクティビティを行うことが良いのではないかと考える。

内容としては大きな壁を制作して行う、大人も参加できる大型雪合戦や、そり遊びなどが考えられる。

雪遊びは危険な事態につながることも少なくないことから、大人の監視のもと、管理された環境で子供たちを遊ばせられるというのは、冬季の子供の運動不足解消にも利用できるのではないかと考えられる。

おわりに

本研究では柏崎の魅力の向上のため、「ホテルかまくら」を提言し、冬の新たなイベントとして成功する可能性が高いことを示唆した。本研究で議論できていない要素はまだ遍在している。これらについては今後の課題としたい。

謝辞

本研究は新潟産業大学、郷ゼミの事業コンセプトをもとに中村陽太氏・野崎悠太氏・梁亜如氏との協働によって作成された。多大な協力・貢献に謝辞を述べたい。